

米雇用堅調、利下げ見送りへ

ポイント① 20万人超の雇用増、失業率低下

12月6日に発表された11月分の米雇用統計によれば、非農業部門の雇用者数は前月比26.6万人増と、18万人増程度という事前の市場予想を上回り、2019年1月以来の高い伸びとなりました。9～10月に行なわれた米大手自動車会社のストライキの反動により、自動車産業で4.13万人雇用が増えましたが、それを除いても20万人を超える伸びです。10月の雇用者数も速報値の前月比12.8万人増から15.6万人増に上方修正されました。

また、失業率は3.5%と10月の3.6%から低下し、約50年ぶりの低水準だった9月と並びました。

ポイント② 12月の追加利下げは見送りへ

米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）では、7月以降3回連続して政策金利の引き下げが行なわれてきました。しかし、12月10、11日開催の次回FOMCでは、堅調な雇用情勢を受けて追加利下げは見送られる見通しです。

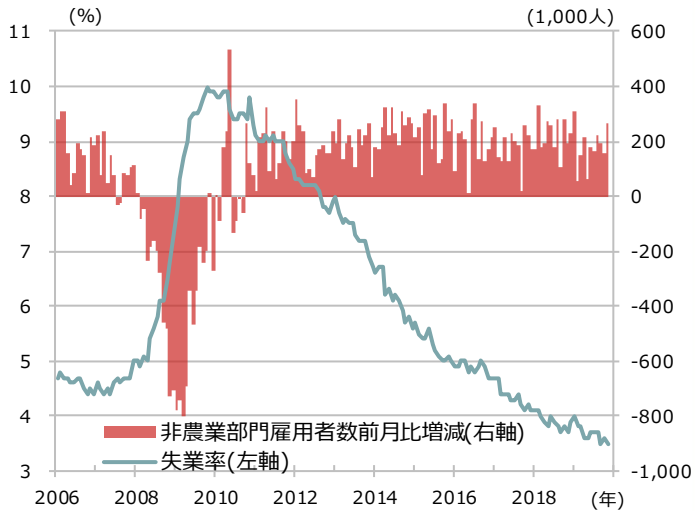
金融市場でも、雇用統計発表後に米株価は上昇する一方、米債券利回りは上昇（価格は下落）しました。

ポイント③ 景気再加速とは言い切れない

ただ、今回の雇用統計で米国の景気が全般的に再加速に向かっているとまでは言い切れないようです。米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、11月には製造業、非製造業ともに10月より下落し、製造業指数はかなり低い水準に留まりました。米中貿易交渉の行方まだまだ不透明な状況です。10、11日のFOMCで参加者が来年の米国の景気に関してどのような見通しを示すかが注目されます。

図1：米非農業部門雇用者数と失業率

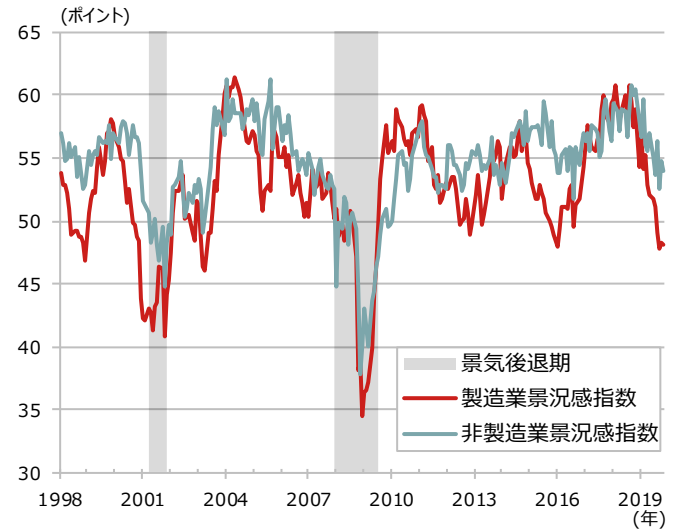
期間：2006年1月～2019年11月、月次



（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ISM景況感指数

期間：1998年1月～2019年11月、月次



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

12月11日 米金融政策発表
12月13日 米小売売上高（11月）
12月17日 米鉱工業生産指数（11月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。